

平成28年度 貨物自動車運送事業における  
中継輸送実証実験モデル事業 有識者検討会  
第2回 議事概要

1. 日 時

平成28年11月25日（金） 13：30～15：15

2. 場 所

中央合同庁舎2号館低層棟1階 国土交通省 共用会議室5

3. 議事概要

○中継輸送の普及・実用化に向けて

(1)今年度実証実験の検証ポイントについて

（齊藤委員）

検証のポイントに、組合の連携による「出会いの場の創出」と「ペア作成」が掲げられているが、それに加えて「ペアを作成し、実証実験して初めてわかる気づきや課題の洗い出し」を追加してはどうか。

(2)中継輸送の拡充イメージについて

（加藤貨物課長）

中継輸送のノウハウ伝承は、どのような仕方を想定しているか。

（事務局）

手順書を準備し、今年度実証実験に協力してくれた組合からの伝承を想定している。

○中継輸送の実証実験実施に向けて

(1)川崎市・大阪市間の実証実験について

（加藤貨物課長）

募集している中継方式はドライバー交替に特化しているのか。

（齊藤委員）

ドライバー交替は、2日連続で行う必要があるため、単発のスポット貨物には向かないのでは。定常的に貨物が存在する事業者同士でのペアリングのほうが良い。

(森田委員)

中継場所は、物流拠点とは限らない。ガソリンスタンドを使うケースもある（お互いの給油、施設での仮眠が可能）。互いに給油可能なガソリンスタンドを選ぶ必要があるが、車両の待ち合わせの時間調整にも使えるなどのメリットがある。

(2) 東北・関東間の実証実験について

(松崎委員)

関東・関西間と比べて検討が進んでいないようだが、実証実験実施時期は関東・関西よりも前になっている。この点は大丈夫か。

(3) 事業者募集について

(松崎委員)

・事業者募集にあたり、まずは中継輸送のメリットを広くアピールすべきではないか。

・中継輸送実施に向けたハードルをどのようにクリアするか（成功要因）を整理してはどうか。

- ① 物が連続である（ドライバー交替、トレーラー・トラクター方式）
- ② 適切な中継場所が確保できる など

○中継輸送実施に向けた対応について

(1) コーディネートの検討状況について

(齊藤委員)

コーディネートが大事なことを理解すると、本当に事業者レベルでできるのか疑問がでてくる。

(森田委員)

やる気のある事業者は、実務ポイントが明確化すれば、動き出すことができるのではないか。

(森田委員)

コーディネートするのは誰になるのか。全ト協や日貨協連などの業界団体が、お見合い相談所の役割を担うのが良いのではないか。お見合い相談するために必要なプラットフォームを全ト協又は日貨協連がシステム化するのには、技術的にそんなに難しくないのでは。

(齊藤委員)

何も無いところからいきなり事業者の中継輸送をやれという報告書(手順書)は難しいのでは。誰がということは今現在決めることはできないが、第三者が必要ではないか。

(松崎委員)

システム化について技術的な道具論として可能ではないかという指摘ということは理解した。どこまで裾野を広げるか、その目標によってもコーディネーターする人は決まってくるのではないか。

## (2) 普及拡大について

(森田委員)

ゼロベースの会社には、中継輸送のメリットを伝えるなど啓蒙活動から始める必要がある。一方、やる気のある会社には、手順書等で実施を支援すれば良いのではないか。全ての会社と同じサポートが必要なわけではないだろう。進んでいけば、事業者が自分でより複雑な運用を考えていくはずであり、中継輸送に係る最もベーシックな方式を作れば、事業者が応用していくと思う。自社のチャンネルで相手を見つけられる、つまり恋愛結婚ができる事業者と、相手を見つけるチャンネルがなく相手をみつけてもらうサポートが必要な事業者、つまりお見合い結婚が必要な事業者でサポートは変わると思う。

以 上